

編集後記：ブロードバンド時代の学術論文

日本大学大学院総合社会情報研究科は、平成 11 年（1999 年）4 月に、インターネットを積極的に利用した日本で最初の通信制大学院としてスタートしました。開設当初は ISDN 回線（64kbps）を標準回線として利用していましたが、モデム接続を利用する学生も多く見られたようです。しかし、4 年目の現在では、ADSL 回線（8Mbps・12Mbps）、場合によっては光ケーブル回線を利用する学生が増え、わずか 4 年で通信スピードは 100 倍、あるいは 200 倍に達しています。

このような通信スピードの飛躍的増加に伴い、教育環境も進化しつつあります。本大学院は開設当初から E-mail を主とした指導体制に加えて、相手の顔を見ながら音声でコミュニケーションが出来る TV 会議システムをいち早く導入しました。しかし、通信速度の遅さや、音質の悪さなどの問題をかかえ、積極的に活用されるまでには至らないというのが現状でした。また、一対一のコミュニケーションが原則で、いわゆる通学制のゼミと同じようなゼミの学生全員が参加した演習や、講義などには不向きでした。しかし、昨年度からサイバーゼミシステムが導入され、ゼミのメンバー全員が同時に参加できる双方向のコミュニケーションが可能になりました。サイバーゼミを初め、サイバー講義、サイバー講座、サイバー輪読会など、このシステムを利用した様々な形態の遠隔教育が試みられつつあります。今後も、さらなるブロードバンド化に伴い、教育システムも進化していくことが予想されます。

本大学院の研究紀要も従来の紙媒体に加えて、昨年度よりホームページ上から手軽に印刷・ダウンロードできるインターネットジャーナル（電子紀要）として発行されるようになりました。これにより、世界中からいつでも好きなときにアクセス可能になりました。今後、本誌の論文が多く読者に読まれる機会が増え、その結果、掲載論文がその関連分野の研究の進歩の一翼を担うことが期待されています。

今号も、29 編もの論文を発行することが出来ましたが、ひとえに本大学院の修了生ならびに教員を含めた関係各位のご努力・ご協力のたまものと言わざ

るを得ません。改めて感謝の意を表します。また、編集作業一般について適時適切なアドバイスをいただいた本学の近藤大博教授ならびに、編集作業を手伝って頂いた橋本信彦氏にも感謝を申し上げます。

(2003/2/7)

編集実務担当 真邊 一近

編集 [審査] 委員

五十嵐	雅郎
乾	一宇
上田	邦義
小松	憲治
近藤	大博
佐々木	健
永岡	健右
真邊	一近
宮本	晃

Editorial Board

IGARASHI Masao
INUI Ichiu
KOMATSU Kenji
KONDO Masahiro
MAMABE Kazuchika
MIYAMOTO Akira
NAGAOKA Takesuke
SASAKI Takeshi
UEDA Kuniyoshi